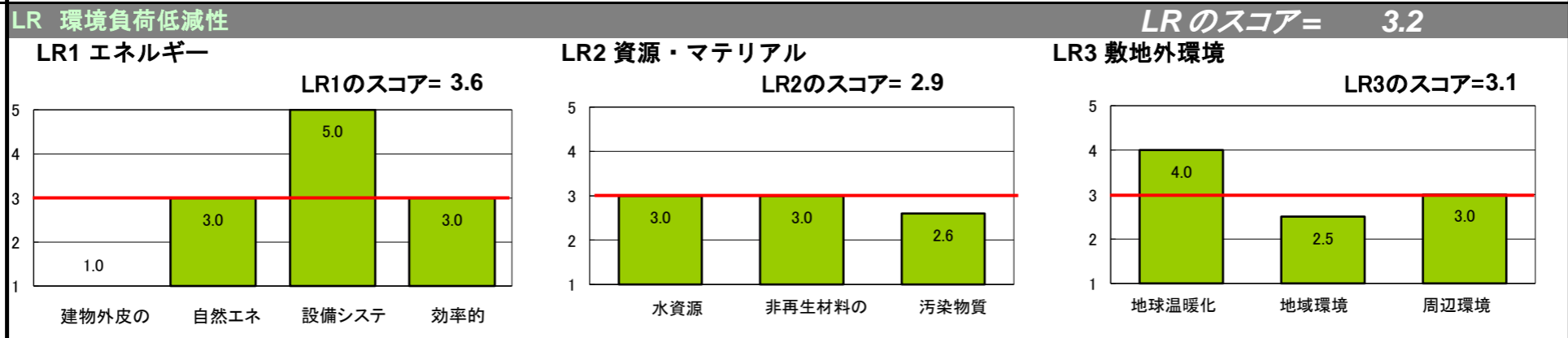
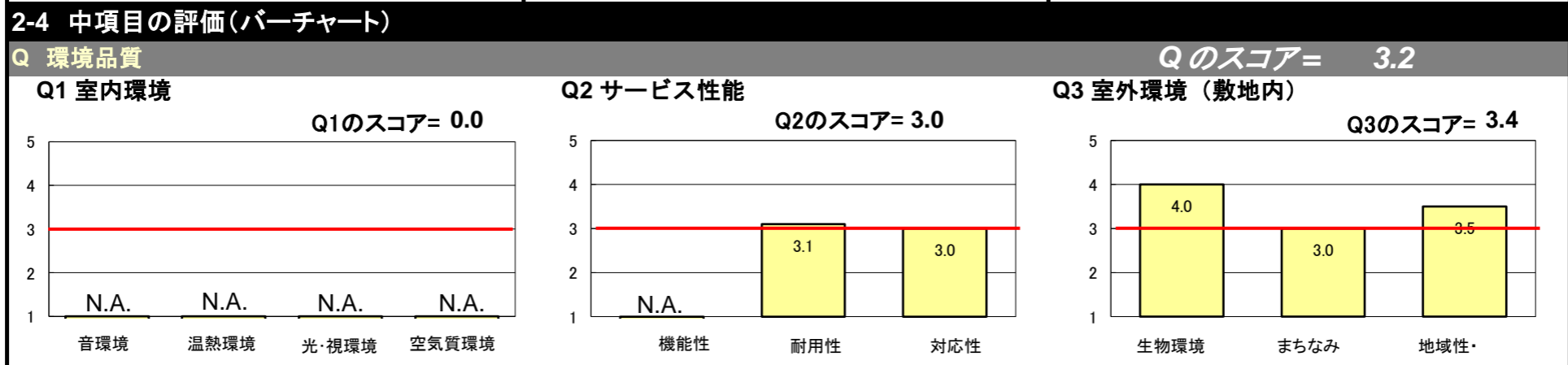
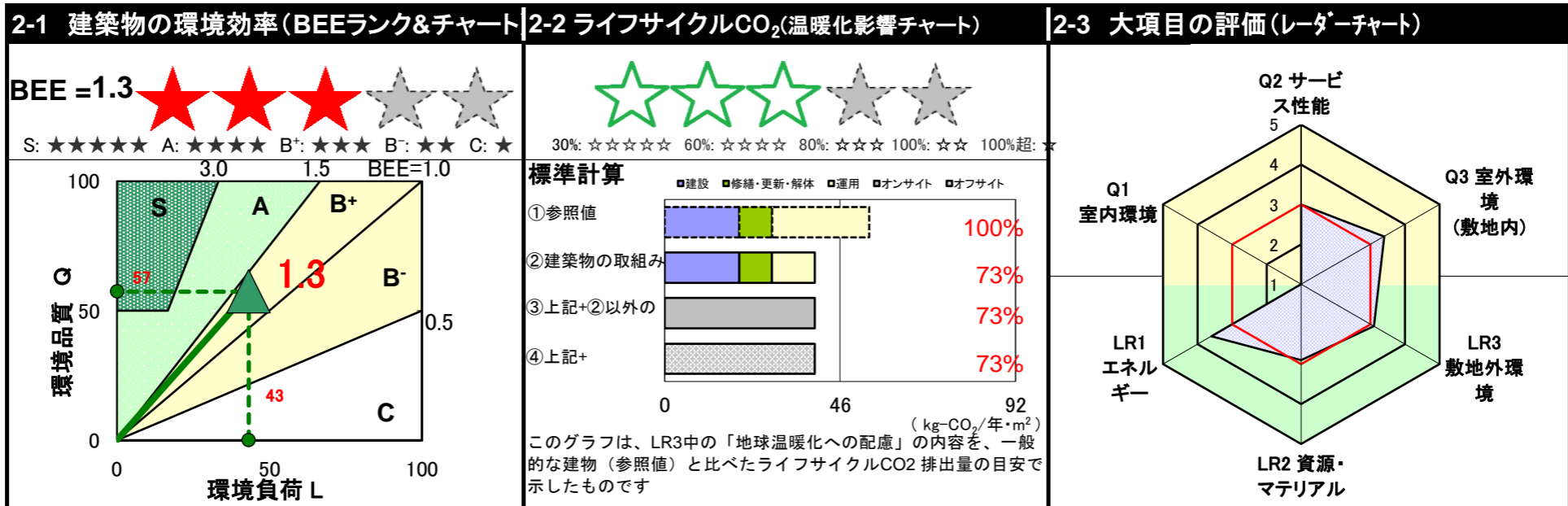


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トヨタテクニカルセンター下山 Ⅱ期中工区 宅盤5タイヤ倉庫棟	階数	地下0階地上5階
建設地	愛知県豊田市下山町下町字上1番地他309筆 岡崎市外山町字モリヤQ番地14他157筆	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	58人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,960時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年12月 予定	評価の実施日	2019年11月28日
敷地面積	1,636,061 m ²	作成者	森 明生
建築面積	690 m ²	確認日	2019年11月28日
延床面積	2,808 m ²	確認者	森 明生



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>4.0</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>4.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>72.2 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.0</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>2.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>御影石</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体		
		Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境												-	
1 音環境												-	
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	3.0	-	-	-		
1.2 遮音				-	-	-	-	-	-	-	-		
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	3.0	-	-	-		
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	3.0	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	-	-	3.0	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	-	-	3.0	-	-	-		
1.3 吸音				-	-	-	-	3.0	-	-	-		
2 温熱環境												-	
2.1 室温制御				-	-	-	-	-	-	-	-		
1 室温				3.0	-	-	-	3.0	-	-	-		
2 外皮性能				3.0	-	-	-	3.0	-	-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-	-	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	-	-	-	3.0	-	-	-		
2.3 空調方式				3.0	-	-	-	3.0	-	-	-		
3 光・視環境												-	
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-	-	-	-		
1 昼光率				3.0	-	-	-	3.0	-	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-	3.0	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	-	-	-	3.0	-	-	-		
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-	-	-	-		
1 昼光制御				5.0	-	-	-	3.0	-	-	-		
3.3 照度				3.0	-	-	-	3.0	-	-	-		
3.4 照明制御				3.0	-	-	-	3.0	-	-	-		
4 空気質環境												-	
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-	-	-	-		
1 化学汚染物質				3.0	-	-	-	3.0	-	-	-		
4.2 換気				-	-	-	-	-	-	-	-		
1 換気量				3.0	-	-	-	3.0	-	-	-		
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	3.0	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	3.0	-	-	-		
4.3 運用管理				-	-	-	-	-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	-	-	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-	-	-	-		
Q2 サービス性能												3.0	
1 機能性												-	
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-	-	-	-		
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	3.0	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	3.0	-	-	-		
3 バリアフリー計画		独自		3.0	-	-	-	-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-	-	-	-		
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	-	3.0	-	-	-		
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-	-	-	-		
3 内装計画				3.0	-	-	-	-	-	-	-		
1.3 維持管理				-	-	-	-	-	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-	-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性												3.1	
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.5	3.1	0.52	-	-	-	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.3	0.33	-	-	-	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23	-	-	-	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②		-	2.0	0.23	-	-	-	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	5.0	0.09	-	-	-	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	4.0	0.08	-	-	-	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	5.0	0.15	-	-	-	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-	-	-		
2.4 信頼性				0.1	3.0	0.19	-	-	-	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	-	-	-	-	-	-	-		
3 電気設備				3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	-	-	-	-	-	-	-		

官庁営繕の値による
厨房排気ダクト・エンジン排気ダクト共ステンレス製
給水C・B、排気B、空調冷媒C

3 対応性・更新性				0.4	3.0	0.48	-	-	-	3.0
3.1 空間のゆとり				0.3	2.8	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	2.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		壁長比率 0.051	3.0	4.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.3	0.38		-	-	
1	空調配管の更新性	②			3.0	0.23		-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	-	-		-	-	
3	電気配線の更新性		壁立上部は配管保護により更新可能	3.0	5.0	0.15		-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	-	-		-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.31		-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.31		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57		-	-	3.4
1	生物環境の保全と創出	独自③	生物環境に関して調査を行い保存、復元計画を実施		4.0	0.30		-	-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			防犯上の死角ができないように建物周囲に空地を配置	0.3	3.5	0.30		-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.50		-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		敷地内の70%以上を緑化し、敷地内に調整池を整備		4.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-		-	-	3.2
LR1 エネルギー						0.40		-	-	3.6
1	建物外皮の熱負荷抑制		PBI -	3.0	1.0	0.20		-	-	1.0
2	自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.10		-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		BEI 0.44	3.0	5.0	0.50		-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20		-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価				-	-	-		-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-		-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル						0.30		-	-	2.9
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15		-	-	3.0
1.1 節水				3.0	-	-		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				1.0	3.0	1.00		-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67		-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.0	0.63		-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.25		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-		3.0	0.21		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-		3.0	1.0	0.21		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	胴縁; パネル・断熱(GW)	3.0	5.0	0.25		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	2.6	0.22		-	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	2.5	0.68		-	-	
1	消火剤				-	-		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)				2.0	0.50		-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境						0.30		-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		①	適切な通行・駐車スペースを確保し、車両通行の利便性に配慮		4.0	0.33		-	-	4.0
2 地域環境への配慮				0.3	2.5	0.33		-	-	2.5
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25		-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25		-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-	-	
3	交通負荷抑制	独自	十分な駐車スペース、荷捌スペースの確保		4.0	0.25		-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1	騒音	独自			3.0	1.00		-	-	
2	振動	独自			-	-		-	-	
3	悪臭				-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70		-	-	
2	砂塵の抑制				3.0	-		-	-	
3	日照障害の抑制				3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20		-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70		-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

トヨタテクニカルセンター下山 Ⅱ期 中工区 宅盤5タイヤ倉

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				4.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.17	外構緑化:72.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		2.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	御影石

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 トヨタテクニカルセンター下

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・車両開発の生産性向上 ・居住環境にも配慮した省エネルギーな施設づくり
Q1 室内環境	
Q2 サービス性能	内装仕上げは最小限として、設備機器と併せて、更新頻度が最小限となるように配慮。階高・床荷重にゆとりを持たせ空間・荷重にゆとりを持たせるように工夫。
Q3 室外環境(敷地内)	積極的な敷地内緑化により、敷地内の温熱環境に配慮。
LR1 エネルギー	用途に合わせた空調方式の採用、LED照明・照明制御により消費エネルギーを低減。
LR2 資源・マテリアル	F☆☆☆☆建材の採用により、地球環境に配慮。
LR3 敷地外環境	敷地内緑化によりCO2削減。十分な駐車スペースやアプローチ車路を確保。
その他	